

被災3年目のいわきを視察

アメリカから高校生10人が来市

被害は、数字だけではとらえられない

住民から直接話聞き思い新た

薄磯・久
之浜訪問

本県出身の大学生が企画

アメリカの青少年健全育成団体「ボイイズ・アンド・ガールズ・クラブ・オブ・ボストン」に所属する高校生10人が20、21の両日、本市を訪れ、東日本大震災被災地の現状を学んだ。企画したのは本県出身の大学生たちで、アメリカの生徒たちは地元の人や学生たちから話を聞くなどして、もうすぐ3年目を迎えるようになっている被災地の今を知り、自分たちができることを考えた。

須賀川市出身を自稱し、ホスト役を務めた金が実施する教育支援
田大1年の菅野英那さん。大学生は一般財団法人「事業のビヨンド・トゥ
んらがツアーを企画」教育支援グローバル基 モローに参加してい



る。同基金は震災直後、
さんが亡くした鈴木貴
さんから話を聞いた。
貴さんは基礎の解体
工事が行われている実
家の見える場所で、震
災当日の体験談を語る
とともに、姫花さんが
描いた同灯台の絵をも
とに作ったハンカチを
見せた。じっと聞き入
っていた生徒たちはあ
ふれる涙をぬぐって
いた。

薄磯海岸の堤防際に
祭られている供養塔に
線香を手向け、津波の
犠牲者の冥福を祈っ
た。久之浜地区では浜
風商店街で昼食を取
り、店主から話を聞
いた。

参加者の1人、ミア・
イーさん(16)は「実
際に日本へ来ること
で、さまざまな被害が
あることを知った。被
害を数字だけでとらえ
がらだけれど、話を聞
くことで、数字に隠さ
れた人たちの思いがあ
ることを知った。友人
たちに教えて、認識を
高めてもらいたいと思
った」と話した。

役が津波直後の薄磯の
様子をとらえた数々の
写真を前に説明した。
生徒たちは津波に流
される車や、地割れし
た道路、漂流した家屋
の2階部分などの写真
を食い入る様子に見つ
め、鈴木さんへ質問し
ていた。このあと、津
波で実母と当時小学4
年生だった長女・姫花

貴さんに話を聞きな
がら思いを寄せた生
徒たち

貴さんに話を聞きな
がら思いを寄せた生
徒たち